

中学生

対象

10/4

10:30
～14:00

／昼食持参＼



石

積みワークショップ

監修：一般社団法人ほらじゅう代表

上原佑貴さん（日本に10人しかいない空石積み職人の1人）

わくわく満載 プログラム



SDGs に大貢献
空石積みって何だろう



どうやって積むの？
基本ルールを知ろう



アプリを使って体験しよう



「小さな石垣」を
作ってみよう

生物応用化学科・電気電子工学科（鈴鹿高専）、
建築システム工学科（舞鶴高専）所属の4名によるチーム。

「空石積み」をテーマに、「高専GCON」という
プロジェクト活動に取り組んでいます。

一緒にお昼を食べながら、楽しくお話ししましょう！
高専に興味のある方も大歓迎！

対象：中学生 定員：9名

場所：鈴鹿高専 コノハナラウンジ

持ち物：筆記用具・飲み物・昼食

申し込み：2026/9/18 〆切
こちらのフォームより👉



わたしたちの活動について

空石積みって何？

石積みは最も古い建築工法のひとつです。とりわけ、身近な自然の石のみを使う「空石積み」は、自然環境との共生の中で生まれた先人の知恵とも言えます。棚田や段々畑といった日本の原風景や、城、信仰の聖地と深い関係を持っています。

なぜ今、空石積みなのか

現代に求められる多様な要素

現代の主要な建築材料であるセメントの製造過程では、実は大量の二酸化炭素が生じます。空石積みはコンクリート擁壁に比べ、産業廃棄物を出さない、二酸化炭素を排出しない、大雨にも強い排水機能、優れた排水性・通気性により石の隙間に豊かな生態系を育むといった利点を持っています。

地域を元気にする

空石積みはコンクリート擁壁と異なり、崩壊する際には一気に崩れることがなく、その兆候が分かりやすいです。こまめな修復が可能で、崩れた石を再利用するため、最小限の労力と資金で機能を維持できます。また、「自分たちで積む」という行為が自律的なインフラ維持・景観保全につながり、土地に対する責任や理解を深めることや、地域コミュニティの活性化に寄与すると考えています。

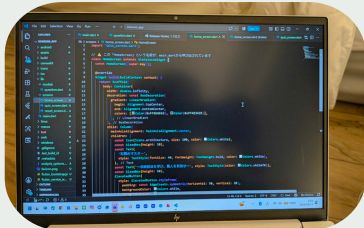
こんな活動をしてきました

石積み修復ワークショップへの参加



「一般社団法人ほらじゅう」主催のワークショップにて、山梨県富士川町の石積みを修復しました。

石積みキット・アプリクイズ作成



多方面から探究

琵琶湖周辺の城跡・城下町・寺社を訪れ、日本を代表とする石工集団「穴太衆」による石積みを調べました。また熊野古道についても現地調査し、信仰文化との関係や、厳しい地理・気象条件だからこそ発揮される排水機能を探りました。



ヨーロッパでは空石積みの価値を見直す動きが広がっています。2018年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。イタリアの石積みについて現地調査しました！

本ワークショップで目指すこと /

空石積みとその文化に関心を持ってほしい！

実は、身近なところに空石積みからなる美しい風景があるかもしれません。自然と調和し生きていくことは、昔の人たちにとってあたり前のことでした。あんなに大きな石をどうやって動かしたのだろう。どれくらい昔からある石垣だろう。魔法のようにも思えることが、「知恵」として、技術として何百年と受け継がれてきました。グローバル化が進む今こそ、このすばらしい「文化」としての広がりを目指すのが大切だと考えています。

考えて試すことを楽しんでほしい！

ミニチュア版だとしても、考えるポイントは実際の施工と同じです。限られた材料の持ち味を見出し、自分たちで作る。実際には、それが未来の風景となる。知的好奇心を刺激するプロセスではないでしょうか。「なぜだろう？」と疑問や興味をもつこと、物事をより良くするために何ができるか考えること、町の情景を作った人の存在や、未来の姿を想像すること。AIには成し得ない「生きる力」を掴むきっかけを作りたいです。

